

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立八丈高等学校 全日制課程

1. 組織

- (1) 東京都立八丈高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
副校長 主幹教諭（教務部主任） 主任教諭（生活指導部主任、主任進路部主任） 計 4名
- (3) 内部委員の構成
校長 副校長 経営企画室長 主幹教諭（教務部主任） 主任教諭（生活指導部主任）
主任教諭（進路部主任） 主任養護教諭（保健主任） 計 7名
- (4) 協議議員の構成
地域自治体首長 地域教育委員会教育長 近隣中学校長 地域官公庁から 5名
PTA 会長 地域有識者 計 10名

2. 令和3年度 学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1回～第3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年 5月 7日（金）
協議委員委嘱 委員紹介 評価委員の選出
 - 第2回 令和3年10月 22日（金）
教育活動中間報告及び学校評価アンケート案提示
全日制課程「島民会議」概要報告 定時制課程「防災教育探究指定校」報告
島留学生フォーラム実施報告
 - 第3回 令和4年 2月 3日（木）（感染症拡大防止のため 書面開催）
教育活動の年間総括 非認知能力の育成とその考察
学校評価アンケート集計結果 来年度への課題
- (2) 評価委員会の開催日時会場 出席者 内容 その他
 - 第1回 令和3年 5月 7日（金）
学校評価の基本方針の確認 昨年度の学校評価の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和3年10月 22日（金）
今年度の学校評価の観点・項目・内容の検討 実施時期の検討
 - 第3回 令和4年 2月 3日（木）（感染症拡大防止のため 書面開催）
学校評価アンケート集計結果 来年度への課題

3. 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校生活の充実度」「学習及び部活動等への意欲」「進路希望の実現」「地域との連携」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回収数・回収率

12月	在籍生徒	対象：128名	回収：96名	回収率	75.0%
12月	保護者	対象：128名	回収：27名	回収率	21.1%
12月	教職員	対象：35名	回収：27名	回収率	77.1%
12月	地域教育関係者	対象：15名	回収：4名	回収率	26.7%

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、学校行事及び部活動、防災教育、健康と安全施設・設備、教職員のライフワークバランスなどの評価項目を学校の実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要

- ・推薦入試について検証し、必要に応じて島内中学生の保護者等へ説明があると、更に良いのではないかと。
- ・通級や特別支援について、更に詳細の説明があると良いのではないかと。
- ・感染症対策と適正な教育活動の実施について、八丈島の実態を考慮していただきたい。
- ・地域との連携について、「防災教育研究指定校」「地域の外部指導員による講習会」、「中学校への出前授業」により積極的に取り組んでいることが評価されている。

4. 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた意見（全日制課程 定時制課程）

- ・コロナ禍での教育活動は大変だが対処していただきありがたい。八丈学、島の産業との連携、ICT活用などの取り組みを島の小中との連携を含めよろしくお願ひしたい。青鳥分教室の開設に伴う兼務の解消、職員増員の要望や島での雇用確保については商工会に話す。
- ・島の中学生が都内の高校に進学する数が減ってきた。中3だけでなく中2、中1へも八高の魅力丁寧にアピールし、八高へ進学したいと思う生徒を増やしていただきたい。授業の様子をアップするなど、ホームページの更新を週に1回くらいの頻度で行ってもらえると、八高の様子がわかってよいのではないかと。ICT教材の開発を小中では2年かけて行っている。八高とも教材を共有できるようにしていただきたい。
- ・八高生のヘルメットの着用が多くなり中学生への影響を考えると嬉しい。中学では八丈方言を学んでいる。八高の生徒をお呼びすることは今の状況下ではできないが、先生方にはぜひ来ていただき八丈学の一環として学べる機会としてほしい。
- ・救命講習について、コロナ禍に対応した講習を学校行事に協力して実施していきたい
- ・一人暮らし生徒の情報を共有したい。本日は薬物乱用防止教室を初めてオンラインで実施した。不慣れで申し訳なかったが、今後もよろしくお願ひしたい。
- ・定時制島外受験生の親子と面談できた。島に定住する貴重な存在なので島全体で受け入れを考えていくことが必要だが、虫よけの対策や網戸の修理など生活のこまごまとした相談も子家センに来るようになった。島留学生の課題や、学校が子家センに求めること、島企業への要望など整理して相談先一覧を作成するなど検討してほしい。

5. 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・公式ホームページ及びTwitterを定期的に更新し、八丈高校定時制課程について広く知ってもらおう。
- ・防災教育研究指定校として、地域と協働した取り組みを次年度も継続して取り組む。

(2) 学習指導

- ・一人1台タブレットを活用した授業と自学自習の定着化を図る。

- ・指導と評価の一体化と観点別評価とルーブリック評価を実施する。

(3) 特別活動

- ・探究学習の成果を生かして、感染症対策等を含めて、生徒の自主性育成につなげる。

(4) 生活指導

- ・SNS八定ルールの見直し、マナー教育等を繰り返し、生徒たちの社会性を育む教育をする。
- ・18歳成人年齢引き下げに伴い、消費生活のトラブル等、心構えについて話し合い活動等を通じ、意識の向上を図る。
- ・自動車、オートバイ、自転車に対し、警察署と連携して年間を通じた安全教育を実践する。
- ・関係機関等連携した防災教育について、生徒主導になるように工夫する。

(5) 進路指導

- ・関係機関や高大連携を生かした3年間を通じたキャリア教育を、進路指導部を中心に計画し、生徒の進路希望実現にむけて取り組む。
- ・移動教室の際に上級学校や企業を訪問し、将来の進路決定につなげる。

(6) 健康・安全

- ・スクール・カウンセラー等を活用した生徒の相談体制の充実化につとめる。
- ・青鳥特別支援学校の協力を得て、特別支援教育について深化させる。
- ・できるだけ生徒主体による感染症対策を工夫して具現化する。

6. 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
10						

7. 職員研修・連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員研修・連絡会 2回（特別支援教育） 企画調整会議 0回

8. その他（総括）

- ・在籍生徒が増加する中で、新学習指導要領に基づく新教育課程が令和4年度より始まる。生徒一人一人の本校入学までの各教科の習熟度を把握し、3年間を見据えて、学力を伸ばし、卒業後の進路実現を達成できるよう教員が一丸となって取り組まなければならない。また、特別支援教育としてSCや外部の専門機関、更には町の小、中学校と連携を取っていく必要がある。
- ・今後も続くと思われるコロナ禍における教育活動を継続させるために、オンラインに対応できるスキルを全教職員で習得し、一人一台端末のより一層の活用をすすめていく。
- ・保護者への教育活動の伝え方の工夫として、島内外の保護者会をオンラインでも可能にするなど、より多くの保護者が参加できるようにする。
- ・アンケート方法をデジタル化して効率化を図ったが、回答率が低下してしまった。回答方法等の工夫が課題になった。